

生活科学学習指導案

平成 20 年 11 月 17 日(月)第 5 校時
1 年 1 組 (17 名)

授業の視点

児童がつくり出した遊びや物で実際に遊び、楽しくなるために考えたことや困った点についての考えを交流し合う際に、同じような遊びをしている児童同士で交流したことは、さらに楽しい遊びや物をつくり出すための工夫に気付くために効果的であったか。

単元名 はっぱのいろがかわったよ

考察

- 1 児童の実態 (略)
- 2 教材観 (略)
- 3 教材の系統 (略)
- 4 他教科との関連 (略)
- 5 校内研修との関連

生活科では昨年度から、「考える力を育てる」手立てとして、体験活動で得た気付きを振り返り、考えを交流する活動を意図的に取り入れ、気付きを高める授業改善に取り組んできた。

本単元では、身近な遊び場での秋探しを通して、特に秋の自然物を利用した物作りや遊びを取り上げる。幼稚園や保育園などでも児童は落ち葉や木の実を使って遊んだ経験をしてきたが、秋という季節の特徴を意識してそれらの活動を楽しんできた児童は少ない。このような児童に、諸感覚を使って繰り返し自然と触れ合う時間を与え、自然物を利用して遊ぶ活動を充分に取り入れれば、自然の不思議さやおもしろさを体全体を使って味わうことができるであろう。そしてそのことで児童に科学的な見方や考え方の基礎を培うことができると考える。また、振り返りの場を生かすことで、友達の活動を参考にしたり、なぜ物作りや遊びがうまくいったのか、うまくいかなかったのか考えたりして、新たな気付きを見出す問題解決的な学び合いの学習が可能となり、児童一人一人が、生活を楽しんでいく方法を考える学習活動につなげることができるものと考えている。

6 指導方針及び学習活動の支援

《事前》

- ・児童の目が季節にともなう自然の変化に向くよう、業前活動や休み時間、放課後などを利用した常時活動で身の回りから秋探しをして自由に掲示する活動を取り入れる。
- ・発見したことや気付いたことを掲示する際には、実物や簡単なカード(ミニカード)を活用するが、児童の負担にならないよう、ミニカードはかく量を少なくする。またカードの記録への負担がさらに減るようミニカードのかき方の指導については、国語科との合科的な学習を取り入れる。
- ・秋に対する関心を高めるよう、事前に保護者にも協力してもらって秋の自然物を集めておくなど、児童が秋の自然にふれ合えるような環境構成をしておく。
- ・児童の気付きにくい植物や生き物の様子にも気付いていけるよう、学校周辺の秋探しでは実物などを用意しておく。
- ・時間的に余裕をもった活動ができるよう、秋の物を使った遊びでは体育科や図画工作科との合科的学習を取り入れる。
- ・遊びを繰り返したり、試行錯誤したりしながら遊びを工夫していけるよう、常時活動でも秋遊びを取り上げる。
- ・活動を生かした効果的な振り返りができるよう、指導計画において弾力的な時間の運用を行う。

《本時》

- ・誰がどんな遊びをしているか、どんなものを作っているか児童に分かるよう、事前に一覧表にして掲示しておく。

- ・気付きをより深めていけるよう、遊ぶときのグループについては、同じような遊びをしている児童で構成する。
- ・具体的な遊び方が考えられるよう、「秋遊びをもっと楽しむための工夫をしよう」という課題をもたせてから実際に遊ばせることで、これまでの活動に改善を加えられるようにする。
- ・相手を楽しませるような人とかかわり方や接し方を考えられるよう、児童それぞれが考えた遊びをみんなで試すことにより、遊び方をわかりやすく説明する必要感をもたせる。
- ・気付きを引き出すよう、振り返りの場では「楽しくなるために考えたこと」「困ったこと」に視点を当て、自分と友達の活動とを比べることにより話し合いを構成する。
- ・グループで遊びながらの交流の時間が確保できるよう、一斉での交流にかける時間をできる限り絞り込む。
- ・一斉での交流にかける時間を短くできるよう、グループでの交流の際に見取ったことを教師があらかじめ板書しておく。
- ・児童の新たな気付きを大切にしていけるよう、時間の許す限り遊びの修正や改良を認めていく。

《事後》

- ・秋の遊びをより楽しんでいけるよう、紹介し合った遊びについて、常時活動でも取り組んでいけるよう配慮する。
- ・季節の変化を日常の生活にも生かしていけるよう、活動の様子を家庭にも伝えていく。
- ・3学期で学習する単元「ふゆをたのしもう」につなげていけるよう、身近な自然の変化についての観察は、常時活動を利用して継続的に行っていく。

単元の目標、評価規準と評価計画（19時間予定：本時はその14時間目）

評価項目の下線部（~~~~~）は、十分満足できる状況を表す。

単元の目標		評価規準				
		関心・意欲・態度	思考・表現	気付き		
・秋になった遊び場での遊びや人、草木、虫などのかかわりを通して季節の変化を体感することができる。 ・工夫して落ち葉や木の実などで遊んだり、飾り物や遊ぶ物を作って友達と一緒に楽しく遊んだりすることができる。		・学校周辺や遊び場で秋にみられる自然の様子を意欲的に探したり、秋の木の葉や木の実等を使って意欲的に作品を作ったり遊んだりしている。	・見つけた秋の様子や楽しく遊んだことを工夫して表したり、材料の特徴を生かして作品を作ったりできる。	・1学期の頃に比べて身の周りの様子が大きく変わったことに気付く。また、安全な用具の使い方や自分や友達の作品のよいところに気付いている。		
過程	単元名	学習活動	時間	評価の観点 関心 思考 気	評価項目 (評価方法)	主な支援
で あ う	こ う て い の あ き み つ け た よ	身の回りにみられる季節の変化を発表しよう。 (服装、虫、食べ物、植物の様子について)	45分×1		身近な自然に目を向け、季節による様子の変化を服装・虫・食べ物・植物の様子などに着目し、複数の観点から探そうとしている。 (発言、つぶやき)	・教室の中で変わったことから発言を求める。 ・1学期の活動の様子の写真を使って季節の変化に着目できるようにする。 ・日々のつぶやきの中から季節を感じる発言を記録しておき、発表のきっかけにする。
		校庭や学校の周りを歩き、秋を見付け、ミニカードにかく。	45分×2		身近な自然に目を向け、様子の変化したことに色・形・手触りなど複数の視点から気付いている。 (行動、つぶやき、ミニカード)	・一緒に活動し、児童の目がいるいるな場所に行くよう声かけをする。 ・見つけた物の特徴を聞き、色、形、手触りなどに気付かせる。
		見つけた秋を、友達に紹介する。	45分×1		見つけた秋の様子を、見た目、手ざわり、においなどに着目して、聞いている人がイメージできるように友達に伝えることができる。 (行動、発言)	・見た目、手ざわり、においなどに着目させることで、集めた物を紹介できるようにする。
		業前活動		(木曜日の登校時～始業) 秋探しをする。		・登校時や下校時にも秋探しができるようにし、朝の会や帰りの会などで、随時

の は ら は ど う な っ て い る か な	1学期に遊びに行 った戸鹿野広場や南 中の野原がどうなっ ているかを予想す る。 《予想の観点例》 ・木の葉の色 ・生き物の様子 ・生えている植物 の様子 遊び場に探検に行 く計画を立てる。	45 分 × 1			季節によって遊び場の様 子が木の葉の色・生き物の 様子・生えている植物など の複数の観点から変化する ことに気付いている。 (発言、つぶやき)	紹介していく。 ・1学期に探検したときの 様子を記録したVTRを提 示し、今現在の身の回りの 自然の様子と比べながら、 遊び場の変化に気付いてい けるようにする。 ・前回遊びに行ったときの 反省などを話し合い、準備 する物のヒントにする。
	戸鹿野広場へ行っ て秋と遊ぶ。	45 分 × 2			遊び場の自然に目を向 け、季節の変化によっても たらされた自然の特徴を生 かして繰り返し遊ぼうとし ている。 (行動、つぶやき)	・広場に行く途中の道で も、秋に気付けるような声 かけをし、意欲的に活動で けるようにする。 ・途中で1度集合し、お互 いの発見を教え合うこと で、活発に活動できない児 童のヒントとする。
	南中の野原に行っ て、秋と遊ぶ。	45 分 × 2			自然の物を使って遊ぶ中 で、夏から秋への自然の変 化の様子に木の葉の色・生 き物の様子・生えている植 物など複数の観点から気付 いている。 (行動、つぶやき)	・一緒に活動し、夏にやっ た遊びがまたできるか問い かけたり、新たにできるよ うになった遊びを問いかけ たりすることで、季節の変 化に気付かせていく。
	広場や野原で発見 したことや、楽しか った遊びをミニカ ードにかき、紹介し 合う。	60 分 × 1			発見したことや自分がし た遊びを、言葉や動作を取 り入れて聞き手がイメージ できるように紹介し合うこ とができる。 (発言、行動、 ミニカード)	・発見したことについて は、「校庭で見つけた秋」 と比べながら紹介できるよ うにする。 ・前時でやった遊びにつ いては、写真や実物を使って 説明できるようにする。
業前活動			(木曜日の登校時～始業、休み時間) 秋遊びをする。 秋遊びの材料集めをする。		・秋の物を使った遊びをみ んなでする他、次時に備 えて材料集めをしておくよ う家庭にも呼びかけておく。	
は た ら き か け る	集めた物を見なが ら、工夫したい遊び や作りたい物を決め る。	45 分 × 1			遊びや作りたい物を、秋 の自然の特徴を生かして考 えようとしている。 (発言、ワークシート)	・遊びを例示したり、秋の 物で作ったおもちゃのモデ ルを提示したりして、児童 が考えるきっかけにする。
	集めた物を利用して、いろいろな物 を作ったり遊んだりす る。	45 分 × 2			作品を作る際に、用紙の 安全な使い方に気付き、友 達の安全にも気を配りなが ら実行している。 (行動)	・用紙の安全な使い方につ いては、活動前に確認して おく。
	考えた遊びや出来 上がった作品で遊ぶ でみて、遊び方・作 り方の工夫や困った ことなどを話し合 う。	本時 60 分 × 1			秋の自然を生かして、遊 びのルールや遊び道具を工 夫して作ったり遊んだりし ている。 (作品、行動、ミニカード)	・楽しみながら作ったり遊 んだりできるように、工夫し ている児童を紹介し、他の 児童の活動へのヒントにす る。
	新たに作りたくな った物を作ったり、 改良できるところを 改良したりする。	60 分			考えた遊びやできあが った作品で遊ぶことで、自分 や友達作品等のよい点や 問題点に気付いている。さ らに、楽しく作ったり遊ん だりするのための見通しをも った具体的な方法に気付い ている。 (発言、つぶやき)	・グループ毎に実際に遊 び、その中から工夫点や課 題に気付いていけるよ うにする。 ・困ったことについては、 場に応じて、グループやク ラス全体で解決策を考え る。
				前時の話し合いを生か した工夫を複数取り入れ、楽 しい遊びや作品を作り上げ ることができる。	・同じ物を作った児童同士 で教え合いができるよう、 同じグループにして活動で けるようにする。	

ふりかえる	完成した遊びや作品で、みんなで遊び、気付いたことや楽しかったことをカードにかく。	×1 45分×2	(作品、行動)	完成した作品や遊びで、繰り返し楽しく遊ぼうとしている。 (行動、つぶやき、ミニカード)	・完成した遊びを試すため、自分が作った物や友達が作った物で、自由に遊ばせる。
	楽しかった遊びを紹介し合ったり感想を発表し合ったりする。	45分×1	季節を生かした遊びの中で、自分や友達の工夫した点やよさ(量的、質的なよさ)に気付いている。 (発言、つぶやき)	・よかった点を発表させることにより、自分たちの活動に自信を持たせ、次の学習につなげていきたい。	

本時の学習

- 1 目標 前時までに考えた遊びや、作った物で遊び、友達と活動や考えを交流し合う中で、さらに楽しい遊びや物を作り出すための工夫に気付くことができる。
- 2 準備 教師：前時までに児童が気付いたことを記入したミニカード
児童：作った遊ぶものや作品
- 3 展開

評価項目の下線 (~~~~~) は十分満足を表す。

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目 (方法)
であう	1. 前時までの活動を思い起こし、本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ともだちがつくったりかんがえたりしたものであそび、もっとたのしくなるためのヒントをだしあおう！</div>	5分	・前時までに秋のものを使って遊んだり物作りをしてきたことを確認し、本時はそれらで遊び合ってみんなでもっと楽しい物にしようとする意欲付けをする。 ・教師が今までの活動で出てきた児童の遊びの例をいくつか紹介することにより、さらに意欲付けを図る。	
はたからきかける	2. 作った物や考え出した遊びでみんな遊び、思ったことを交流し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される児童の遊びの例</p> <p>《ア、作品作り》 葉っぱや木の実ではり絵 葉っぱや木の実でアクセサリや飾り作り 葉っぱや木の実でお面やかんむり、人形作り 葉っぱや木の実で作ったおもちゃ遊び (木の実のこま、マラカス、木の実の迷路、木の実のやじろべえ、まとあて、葉っぱ手裏剣 等)</p> <p>《イ、素材の特徴を楽しむ遊び》 落ち葉でこすり出し 落ち葉を踏みしめたり投げ上げたりしてその感触を楽しむ</p> <p>《ウ、ゲーム的な遊び》 葉っぱや木の実でカルタ遊び 葉っぱや木の実を投げたり</p> </div>	35分	・遊ぶ際には左表のア～エの観点をもとに同じような遊びをしている児童毎にグループに分け、それぞれ、今までしてきた活動や、道具の作り方・遊び方を簡単に説明させてから遊び合うことで、気付きを高めていけるようにする。 ・遊ぶグループについては流動的なものとし、児童の興味に合わせて、自由に変えていけるようにする。 ・遊びながら、楽しくなるために考えたことや困ったことを自由に交流させる。 ・教師も一緒に活動し、児童の活動やつぶやきから工夫している点や課題を見取る。また、見取ったことは随時記録用紙に記録して黒板に掲示し、後の全体での話し合いで生かすようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>-- 予想される児童の工夫、課題 --</p> <p>工夫さ、仕上がりの美しさ、ルール、機能性等</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> ↓ </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-top: 5px;"> 工夫 支援例 課題 </div>	

転がしたり落としたりつかんだりして、ゲーム遊び
《工、体を使って行う遊び》
 葉っぱや木の実を体に付ける
 つるを使って縄跳びや電車ごっこ
 等

予想される児童の姿
 C1：何をしてよいか分からない。
 C2：自分の遊びに夢中で他の児童とかかわれない。
 C3：遊びに関して気付きがもてない。
 C4：自分の考えた遊びをうまく友達に紹介することができない。
 C5：遊びがうまくいかずに、楽しく遊べない。

ふりかえる

3. 楽しくなるために考えたことや困ったことについて話し合う。

予想される児童の姿
 C1：話し合いに無関心で反応が見られない。
 C2：気付いたことをうまく表現できない。
 C3：話題に関係のない話をしてしまう。
 C4：工夫した点や困った点について気付きをもてない。

賞賛して、次の活動への意欲につながる。
 工夫している児童を紹介し、相談させる。

・なるべく多くの作品や遊びを見せ合い遊ぶことにより、さらに楽しい物や遊びを作り出すための気付きを高めていく。
 ・交流の中で気付いたことをもとに、自分の作品や遊びを改良したり他の方法を試したりしたくなった児童については、時間があれば自由に活動させる。

支援例
 C1：板書をもとに、何をするのか、もう一度確認する。
 C2：板書をもとに、どうすればいいのか考えさせる。
 C3：まず、どの遊びの、どんなところがおもしろかったのか、具体的に考えさせることで、徐々に気付きをもたせていく。
 C4：動作や身振りも交えて紹介できるよう助言する。
 C5：どうしたらうまくいくのか、グループの友達と相談するよう助言する。

気付き

考えた遊びやできあがった作品で遊ぶことで、自分や友達の作品等のよい点や問題点に気付いている。さらに、楽しく作ったり遊んだりするための見通しをもった具体的な方法に気付いている。
 (発言、つぶやき)

15分

支援例
 C1：意図的に指名して、自分の活動を思い出させる。
 C2：同じ意見に挙手させることで、話し合いに参加させていく。
 C3：板書を示し、自分の発言がどれと関連しているのか考えさせる。
 C4：友達の様子を見せたり、意見を聞かせたりして気付かせていく。

4. 次時にやってみたいことを考える。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動を生かして、次時にやってみたいことを考えることができるように助言する。 ・ 本時の活動が生かされている内容のものを賞賛して、次時への意欲付けをする。

4 板書計画

<p>ともだちがつくったりかんがえたりしたものであそび、もっとたのしくなるためのヒントをだしあおう！</p>		
<p>そのために たのしくなるためにかんがえたこと や こまってしまったこと を、つたえあおう！</p>		
<p>おもちゃをつくったよ グループ</p> <p>たのしくなるためにかんがえたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <hr style="border: 0.5px solid black; margin: 5px 0;"/> <p>こまってしまったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	<p>ゲームをつくったよ グループ</p> <p>たのしくなるためにかんがえたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <hr style="border: 0.5px solid black; margin: 5px 0;"/> <p>こまってしまったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	<p>こんなものができたよ グループ</p> <p>たのしくなるためにかんがえたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <hr style="border: 0.5px solid black; margin: 5px 0;"/> <p>こまってしまったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・